

社会福祉法人日本ライトハウスの沿革

大 正	11年 (1922)	<p>【創業】 早稲田大学在学中に失明した岩橋武夫が自宅で点字出版に着手した。岩橋は、エディンバラ大学で修士学位取得後、母校の関西学院の教壇に立つ。関西学院では、若き日の日本点字図書館創立者本間一夫氏など視覚に障害のある多くの学生達が学んだ。</p>
昭 和	3年 (1928) ～ 11年 (1936)	<p>【法人の設立】 自宅に「ライトハウス」の看板を掲げて拠点施設の建築に取りかかるとともに点訳奉仕会を組織。昭和10年には大阪市住吉区に施設を建設し、陸の灯台守である「ライトハウス」を開館した。点字出版事業の本格的開始、点字図書の貸し出し、各種講習会、家庭訪問指導、盲人実態調査などを実施。翌年（11年）には、ライトハウス運動の提唱者マザー婦人を迎えて開館式を行う。この年にクエーカー系ミッション・スクール「灯影女学院」の立ちあげ。</p>
	12年 (1937)	<p>【第1回ヘレン・ケラーキャンペーン】 1934年の訪米の際に知己を得たヘレン・ケラー女史を招き、日本全国から朝鮮、中国東北部(満州)にわたり、4ヵ月間の巡回講演を行った。盲学校の義務教育化が主要なテーマ</p>
	23年 (1948)	<p>【第2回ヘレン・ケラーキャンペーン】 ヘレン・ケラー女史を再び招き、2ヵ月間にわたる講演行脚を行い、「身体障害者福祉法」制定に向けた国民運動を展開(「身障福祉法」は24年に成立) ●「日本盲人会連合」を結成、キャンペーンを展開(岩橋武夫が会長)</p>
	27年 (1952)	<p>【法人認可】 社会福祉事業法に基づき「社会福祉法人ライトハウス」と改称</p>
	28年 (1953)	<p>「日本盲人社会福祉施設協議会」発足(委員長 岩橋武夫) 当事者団体と支援者団体の役割を明らかにするとともに、世界盲人福祉協議会(WBWC)における日本の立場を明確にした。</p>
	29年 (1954)	<p>岩橋武夫が死去し岩橋英行が2代目理事長に就任 ●盲学校点字教科書(高等部)発行に着手</p>
	30年 (1955)	<p>ヘレン・ケラー女史が岩橋武夫の弔問に訪れる。岩橋武夫が悲願とした「アジア盲人福祉会議」は東京で開催され、対外業務を行う「日本盲人福祉委員会」発足させ、事務局をライトハウスに置く(31年)</p>
	31年 (1956) ～ 34年 (1959)	<p>【視覚障害児・者への情報提供の拡充】 ●盲学校理療科点字教科書の発行開始 ●盲学校小・中学部点字教科書の発行開始 ●声の図書館を開設：録音図書の製作・貸出を開始、36年より厚生省委託「声の図書製作・貸出事業」を開始</p>

<p>35年 (1960)</p> <p>}</p> <p>38年 (1963)</p>	<p>【創立 40 周年に向けて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「社会福祉法人日本ライトハウス」と名称変更 大阪市鶴見区今津新社屋を建設・移転 ●厚生省・大阪府補助金を得て大阪市阿倍野区に「大阪盲人ホーム」開設（34年） ●「日本ライトハウス四十年史」発刊（37年） ●コンサイス英和辞典全71巻を点字出版（第1回大阪文化賞授賞） ●厚生省委託「点字図書製作・貸出事業」を開始（38年）
<p>40年 (1965)</p> <p>}</p> <p>47年 1972</p>	<p>【視覚障害リハビリテーションへの着手】「有能なる社会人の創造」を掲げて「職業・生活訓練センター」を新築し，生活指導や職業開拓を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ●電話交換手養成事業が厚生省委託事業となる ●歩行訓練指導員養成講習会開催(AFOB、現ヘレン・ケラー・インターナショナルとの共催)（47年からは厚生省委託事業となる） ●コンピュータ・プログラマー養成コースを開設（46年） ●「世界盲人百科事典」完成（47年） ●盲導犬訓練事業を開始(47年)
<p>48年 (1973)</p> <p>}</p> <p>50年 (1975)</p>	<p>【アジアとの接点の拡大】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●アジア眼科医療協力会(AOCA)を発足してネパールなどへの眼科医療 ●「岩橋武夫賞」創設してアジアの盲人福祉事業への功労者の顕彰 第1回岩橋武夫賞を台湾盲人重建院の曾文雄氏に授与(50年)
<p>51年 (1976)</p> <p>}</p> <p>56年 (1981)</p>	<p>【事業の再構築】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●和歌山県田辺市，市内肥後橋に土地の寄贈 ●資金援助を求めて各方面への援助依頼や「募金への呼びかけ」 第1回チャリティショーを開催（51年） ●「行動訓練所」(盲導犬事業部門)を和歌山県田辺市に新築（53年） 後援会「盲導犬を育てる会」発会（54年） ●[盲人情報文化センター]を大阪市西区に開館（54年） 対面朗読サービスを開始／「ボランティア友の会」結成 ●後援会「日本ライトハウス阪神友の会」発足（56年） ●職業訓練部門が労働省へ移管（56年）(身体障害者等能力開発訓練事業)
<p>55年 (1980)</p> <p>}</p> <p>58年 (1983)</p>	<p>【点字出版事業の質的拡充】</p> <p>点字自動編集・製版システム「BRED68」を開発・導入（55年）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●発泡印刷システムを導入し、「社会科地図帳」新版などを点字出版 ●新コンサイス英和辞典全100巻点字出版（58年）、 ●フランス基本語5000辞典全14巻点字出版（日本翻訳出版文化賞受賞）(58年)
<p>59年 (1984)</p>	<p>岩橋英行理事長が死去し、岩橋明子が3代目理事長に就任</p>

60年 (1985) }	【情報提供・製作・情報共有化事業の充実】 ●「'85 盲人福祉展」を開催(～'90) 「視覚障害情報サービス」を開始 (日本アイ・ビー・エム助成) (61年) 専門点訳・音訳講習会を開講 (62年)
63年 (1988)	●スチューデント(プライベート)点訳サービス開始 (63年) ●点字雑誌「黎明」通算 600号、記念号発行
平成3年 (1991) }	【創業 70周年を期して業務の機能分化】 ●出版部門を点字情報技術センター」と改称し、東大阪市に新築移転 (3年) ●リハビリテーション部門を改築して、「視覚障害リハビリテーションセンター」と改称「ジョイフルセンター」「デイワークセンター」新設「職業・生活訓練センター」の改修 (4年)
平成8年 (1996)	●「行動訓練所」を大阪府千早赤阪村に新築移転 (7年) ●日本ライトハウス後援会「灯友会」が発会 (8年)
11年 (1999) }	【創業 80周年に向けて】 木塚泰弘が4代目理事長に就任、 ●法人ホームページを開設 (12年)
14年 (2002)	●デিজィー図書製作・貸出開始 (11年) ●80周年記念誌「わが国の障害者福祉とヘレン・ケラー」出版 (14年)
17年 (2005) }	【事業の再編】 ●大阪盲人ホーム「はなてん治療院」を改築 (17年) ●盲人情報文化センター改築に着手 (21年に新築開館、「情報文化センター」に改称)
21年 (2009)	●リハビリテーション部門の事業再編 居宅介護事業所「居宅支援センターてくてく」開設 (19年) 障害者支援施設「日本ライトハウスきらきら」開設 (21年) 障害福祉サービス事業所「日本ライトハウスわくわく」開設 (21年)
22年 (2010)	●マルチメディアデিজィー製作事業開始 (20年) ●大阪市立早川福祉会館点字図書室の運営を受託 ●「サピエ」(「ないーぶネット」と「びぶりおネット」を統合発展)サポートセンターを担当
23年 (2011)	●日盲社協点字出版部会事務局として日本点字出版総合目録:を編集発行 ●東日本大震災視覚障害被災者支援に職員を派遣
24年 (2012)	【創業 90年を迎える】 (式典 11月 18日) 記念誌「往復書簡 日本の障害者福祉の礎となったヘレン・ケラー女史と岩橋武夫」刊行 ●情報文化センター分館(点字・録音書庫)を開設
25年 (2013)	木塚泰弘の退任に伴い、橋本照夫が5代目理事長に就任 「日本ライトハウスの基本理念」「日本ライトハウス職員倫理綱領」の公表